

西三条第跡出土の遺物 5 木製品

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに ここでは平安京右京三条一坊六町跡(藤原良相邸、西三条第推定地)の池から出土した木製品を紹介します。平安京では、木製品の残りが悪いため、9世紀後半に属するこれらの木製品は、当時の生活様式をうかがう貴重な遺物といえます。

木簡 1 長さ20.6cmの細長い板材の両面に墨書があります。表面の7文字は、漢字の崩し方からみて仮名文字とみられます。

木簡 2 折敷の底板に2列以上の墨書があり、左列には「酒」と糸偏をもつ漢字が書かれていたと想定されます。容器の中身を記していたのではないのでしょうか。

櫛 現在の横櫛とほとんど同じ形態の櫛が10数点出土しています。大きさから4種類以上に分類でき、写真の1番上が最小、次が2番目、下の2つが大型に属します。歯と背の境に引かれた横方向の直線は、鋸で歯を挽き出す際の目印とみられます。歯の間隔は、大型で1cm当り約10本です。

檜扇 紙貼りの扇(編扇)が普及する以前に使用された扇です。一般的には上端の両側には板(橋と呼ぶ)を綴るための小孔が穿たれますが、写真の檜扇には綴孔は確認できません。4種類に分類できるため、階層・年齢・性別などで違いがあったと思われる。

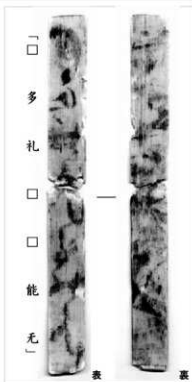
ヘラ状製品 一方の先を尖らせた板状製品で、形状からみてヘラとして使用されたと考えます。

串状製品 ヘラ状製品より先が鋭く尖った製品です。用途は特定できませんが、同じく工具の一種とみられます。

淨子 両側を尖らせた棒状の製品で漁具の一種とされています。写真の左は完存品です。

弓 先端は両側から削り込んで薄く加工されており、弯曲具合から弓の端部とみられます。

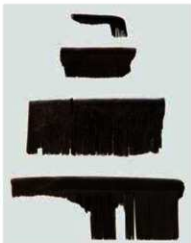
調度品 左は角材の上端を細く削り出し、下には2方向の穴が穿たれます。上端を別の部材に差し込み、下にも直角方向の部材が差し込まれたとすると、机か椅子の脚部と推定されます。右は上面が削り込まれ、そこを別の個体に嵌め込んだと推定される個体です。下面是波状に加工されており、装



木簡1 長さ20.6cm(※外縁写真)



木簡2 上下の幅7.5cm(※外縁写真)



櫛
上下の幅は上から1.4cm、2.0cm、3.8cm、4.2cm



檜扇 長さ33.5cm

飾性の高い調度品の一部とみられます。

下駄 現在の下駄とほぼ同じ形で、成人用とするとかなり小型です。完存品ですが、底の歯は相当磨り減っています。

舟形 中央を削りぬき舟状に加工した製品で、舟の形代として作られた祭祀具です。

車輪形 曲物底板の中心に円孔が穿たれ、縁の輪郭と中心から放射状に延びる線が墨で描かれています。牛車などの車輪を表現した祭祀具の一種です。

折敷 隅丸長方形の底板と、その上の側板が残ります。側板は長辺側のみであり、短辺側には縦孔も認められません。

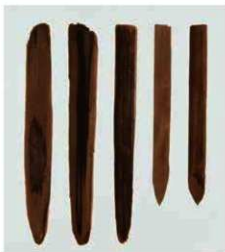
その他 角材、板材、棒状を呈するものが出土していますが、用途は特定できません。

まとめ 木製品が多く出土した中において、木簡の出土は2点に留まりました。その背景として紙が普及しつつあったためと考えられます。

調度品として紹介した2点は、机や椅子などの一部とみられます。ヘラ状・串状を呈する製品は工具であり、邸宅内で製品を加工・修繕する部署があったことが想定されます。

櫛と櫛扇については、出土数が多いことと、様々な大きさの製品が含まれることが注目されます。特に小型の製品は女性や子供が使用したことが想定でき、藤原良相一族の私的な生活様式を示す貴重な遺物といえましょう。

(丸川義広)



ヘラ状製品
左の3本は長さ約15cm



串状製品
3本とも上部欠損、中央の長さ9.3cm



浮子
左は長さ7.2cm



弓
長さ13.5cm



調度品
左は長さ19.2cm、右は長さ8.3cm



下駄 長さ21.2cm



舟形
長さ19.6cm



車輪形 直径10.0cm



折敷 長さ46.1cm